

エンジニアリング Q&A

「流出解析モデル利活用マニュアル」の改訂について

Q 流出解析モデル利活用マニュアルが改訂されたと聞いていますが、最新版はいつ発刊されたのですか？また内容はどのように変わったのでしょうか？

A 流出解析モデル利活用マニュアルは、2006年3月に2回目の改訂を行いました。

流出解析モデル利活用マニュアルは、流出解析モデルの利用促進を目的として、1999年3月に初版を発刊しました。その後、ソフトウェアの機能向上に対する対応や、当時の施策である合流式下水道改善計画事業での利用を視野に入れ、2003年6月に第1回目の改訂を行いました。さらに、下水道法施行令の改正、特定都市河川浸水被害対策法の施行等により、流出解析モ

デルの活用範囲がより広がったことから、内容の充実を図り、第2回目のマニュアル改訂作業を行うに至っています。

2006年の改訂では、その作業に先立ち、流出解析モデル利活用に関するアンケート調査を行い、利用するために必要とされている項目を整理しました。その結果を改訂内容に反映させ、従来のマニュアルよりわかり易く、使い易い内容にしています。

アンケート結果によると、1999年は59件であった流出解析モデルの利用実績が、2004年は129件と2倍以上になっています。今後も本マニュアルが広く利用され、安全で安心な社会環境の構築に貢献できることを期待しています。(研究第二部)

流出解析モデル利活用マニュアル改訂の経緯

事 項	年 月
マニュアル初版の発刊	1999年3月
マニュアル改訂版の発刊(第1回改訂)	2003年6月
流出解析モデルの利活用に関する実態調査	2004年12月～2005年6月
マニュアル改訂版の発刊(第2回改訂)	2006年3月

設計標準歩掛の管切断費用及び管損失費用の計上について

Q 下水道用設計標準歩掛表(平成19年度)第1巻「管路」の中のA-1-13, 3. 施工歩掛, 表-4-2 鉄筋コンクリート管布設歩掛およびA-1-15, 3. 施工歩掛, 表-6-2 塩化ビニル管又は強化プラスチック複合管布設歩掛の備考に「諸雑費は～管切断費用及び鉄筋コンクリート管損失費用は含まない」、「諸雑費は～管切断費の費用であり～管損失費用は含まない」とあります。管切断費用及び管損失費用の計上について想定されている考え方はあるのでしょうか。国交省の赤本(共通編の排水構造物)のヒューム管据付歩掛, 排水管布設歩掛等では、諸雑費率やロス分を含めることで対応していますが。

A まず、鉄筋コンクリート管の管切断費用ですが、ヒューム管の切断方法は、現場切断と工場加工があり、実態調査時点ではφ300mmまでは現場切断が可能であるがそれ以上では専門業者や工場加工対応となるため、相関がとれず率化が図れなかった経緯があります。

そのため、「下水道用設計標準歩掛」では諸雑費率に含めず別途考慮することになります。

(赤本とは適用範囲や人工などにもかなりの違いがあります)

次に、各管種における管損失費用ですが、一般の下水道工事では発注ごとのスパン数が多く、マンホール位置の微調整によっては損失の程度は明確でないため、取扱いを一本化していません。自治体によって、拾い方の要領に差異があるようですが、積算上の基本の考え方は「適切に材料を拾う」ことになります。

(企画部)